

「本当の不幸とは何でしょうか」

川並 秀賢

20代の頃、「親鸞聖人の御絵像の右肩にある、4行の文字（「観仏本願力 遇
無空過者 能令速満足 功德大法海」）の意味は何ですか」と質問を受けたこ
とがあります。この質問を受けたおかげで、幸せとは不幸とは何かと、心を置
いて生活するようになりました。その場では「分かりません」とお答えするの
みでしたが、後に『願生偈』と呼ばれる天親菩薩の著作の言葉であることを知
りました。これは『浄土論』とも呼ばれ、簡単に申せば『仏説無量寿経』に基
づいた浄土往生を願う内容であることが分かりました。

御絵像の右肩にある4行は、「阿弥陀如来の本願力を観察すると、出遇うもの
は、むなしく過ぎるということはありません。阿弥陀如来はすみやかに功德の
大宝海を成就されたのであります」という意味です。とても意味のある4行で
す。

さて、10年ほど前に私の娘と家内が続いて世を去りました。多くの方が「ご
住職は不幸が続きましたね」と慰めてくださいましたが、「死ぬことは速いか遅
いか必ずあることであり、誰にでもあることです。これを不幸とは言いません」。
「本当の不幸は、阿弥陀如来の本願力に出遇えぬまま一生を過ごすことだと思
います」と答えました。身内の死を縁として、後生の一大事にかかわることが
できたことは、不幸ではなくて、ありがたい幸せなことだと受け止めました。

人間の寿命はまさしく不明ですが、ただ一つ言えることは、阿弥陀如来の願
いを、自分の身に引き当てることなく、いたずらに年数だけ数えているのは、
究極の不幸だと思うようになりました。一日一日を虚しく過ごすことのないよ
うに、人様のために何がさせてもらえるか、考えながら毎日を送りたいと思
います。